

# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立戸畑中央小学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	○対象児童 II：全学年児童 669人 III：第5学年児童 131人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 道 徳 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( 総合的な学習の時間 ) ※第5学年：車いすバスケットボール選手との交流 (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目 標 (ねらい)	II 「おもてなしの心」について講師の話を聞き、自分とつながりのある人たちと仲良くしていくにはどうしたらよいかを考え、実践していこうとする心情を養う。 III 車椅子バスケットボールの選手との交流や、競技用車椅子の使用体験を通して、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて、自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	実践①「おもてなしの心を学ぼう」 ○ 学校で取り組んでいる「あいさつ運動」など、まわりの人と上手に関わる方法について学級で話し合う。 ○ 「おもてなしの心」について講師の先生の話聞く。



【筑波大学の江上いずみ先生の講演の様子】

- 講話の内容をふり返り、自分とつながりのある人たちと仲良くしていくにはどうしたらよいかを考え、実践していく。

《実践後の児童の感想》

今日はおもてなしについて教えてもらいました。確かにいつも飛行機に乗るときは、CAさんの対応は親切だし、気を使ってくれているなと思いました。CAさんじゃない私達でも、日常の中で、おもてなしの心が表されたらいいなと思いました。だから、相手に何をしたら喜んでもらえるか考えて、行動しようと思いました。

#### 実践②「パラリンピックの競技を体験しよう」

- パラリンピックにはどんな競技があるのか調べる。  
○ 車いすバスケットボールの選手の話の聞いたり、実際に車いすを使用してバスケットボールを体験したりする。



【パラアスリートの福沢翔選手の話聞く子どもたち】



【競技用車いすでバスケットボールを体験する子どもたち】

- 講話や体験をもとに友達と意見交流する中で、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していく。

《実践後の児童の感想》

- ・ 来年のパラリンピックをテレビで見たいです。
- ・ 今日車いすバスケットボールの福澤選手が来てくれて体験をしました。競技用の車いすに乗ってみると、目線も全然違って初めてバスケットボールをしたような感覚でした。思うように動かなくて、とても難しかったけど、楽しかったです。

<p>6 主な成果</p>	<p>○実践①「おもてなしの心を学ぼう」について 筑波大学の江上いずみ先生をお迎えして、「おもてなしの心」についてお話していただいた。笑顔やアイコンタクトの大切さ、分離礼・ノック・握手の仕方などを教えていただいた。また、相手に喜んでもらいたいという気持ちが大切だということを繰り返し教えていただいた。これらのことは、学校生活においても大切なことであり、子どもたちは、これから実践していこうという意欲を高めることができた。</p> <p>○実践②「パラリンピックの競技を体験しよう」について 車いすバスケットボールの現役選手である福澤選手の話を知り、競技用の車いすに乗ったりする体験をすることができた。また、子どもたちは福澤選手がプレーしている姿やこれまでの生き方・考え方に触れることで、その生き方や考え方に共感するとともに、これからの自分の学校生活にも活かしていこうという気持ちをもつことができた。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>○ 「おもてなしの心」の講演会では、講師を招聘するに当たって、近隣の3つの学校と連携して日程等の計画を立てた。そのことにより1校当たりの経費を抑えることができた。また、子どもの発達段階に合わせて話をさせていただくために、1～3年と4～6年の2部構成にして全学年に実施するようにした。</p> <p>○ 「パラリンピックの競技を体験しよう」では、競技用の車いすを障害者スポーツセンターから8台借用し、より多くの子どもたちが競技用の車いすを使ってバスケットボールの体験ができるようにした。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○ 現役の選手を招聘するには、日程の調整が難しい。できれば、地域別に招聘できる選手や期間をまとめたリストなどを提供していただきたい。</p> <p>○ 本校は学校規模が大きいので、全ての学年に体験の場を設定するのは難しく、どうしても高学年が中心となってしまふ。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○ オリンピックやパラリンピックに出場経験のある選手を招聘し、子どもたちと交流を行う。</p> <p>○ 総合的な学習の時間を活用して、オリンピックやパラリンピックの歴史・競技種目などを調べて発表する活動を行う。</p> <p>○ 2020東京オリンピック・パラリンピックに出場する国々について調べ、応援フラッグの作成を行う。</p> <p>○ ライブサイト・パブリックビューイング・TV等で観戦や応援をする。</p> <p>○ オリンピックやパラリンピックの競技種目の中からいくつかを選び、校内または学年オリンピックを開催する。</p>